

近所のキラキラ まさき人

今回は私たちが、北伊予中学校の「あいさつ運動」と「リサイクル活動」について紹介します。



北伊予中学校
生徒会の
皆さん



このコーナーは、広報担当者ではなく町民の皆さんがカメラを持って、松前町の魅力を取材します。取材してくれる人を募集中です。詳しくは、総務課広報情報係(☎985-4132)に連絡を。

松前の魅力伝え隊

学校自慢編

町民が松前町の魅力を取材します

Reporter

私たちは、自分たちの学校生活や身の回りの環境を良くするため、朝7時30分から7時45分までの時間を活用して、二つのことを行っています。

一つ目は、毎週校内で行っているあいさつ運動です。気持ちの良いあいさつで、学校の雰囲気明るくし、地域や町全体の活性化に繋がっていきたくと思っています。最近は北伊予小学校に行き、あいさつ運動をしました。小学生には、あいさつを通して北伊予中の明るい雰囲気を感じ取り、安心して入学してほしいと思っています。

二つ目は、リサイクル活動です。アルミ缶を毎週、ペットボトルのキャップを年に数回、回収しています。普段はゴミとして捨てていたものが、私たちの学校生活のために使う生徒会費や、発展途上国のためのワクチン代として使用され、大変やりがいを感じています。

朝の短い時間ですが、日々の小さな継続が大きな力になることを実感しています。校訓である、「真実を求め 希望に生き 実行に徹せよ」を胸に、これからもこの活動を継続していきます。



北伊予小学校に
出向き「あいさつ」



アルミ缶
の回収



日々の小さな継続を
大きな力にして、
活動を続けていきます。

Statistics

統計

()は前月比



人の動き

(H 30.2.28 現在)

男性	14,612人	(±0)
女性	16,265人	(-8)
合計	30,877人	(-8)
世帯	13,292世帯	(+1)

松前町は平成 72 年に 25,000 人のまちを維持します

Payment

支払

◎納期限内に納めてください

固定資産税

第 1 期

納期限 5月1日(火)

口座振替 4月25日(金)



家族のきずな Family

友人知人の家族をリレーでつなぎます

忽那正伸さん 恵美さん 璃久くん 瑠莞くん
(北川原)

北川原に住む忽那さんファミリー。家族の小さなアイドル瑠莞くんを中心に、日々楽しく過ごしています。

「いつも親身になって子どもたちに関わっている」と恵美さんのことを話す正伸さん。病気のときも夜遅いときもいつも子どもたちのことを一番に考えています。「かわいいんです」と瑠莞くんを抱きかかえながら恵美さんはにっこり。お兄ちゃんになった璃久くんも、瑠莞くんにダンスを披露して楽しませたり、率先して面倒を見たりしています。

家で楽しく過ごしている忽那さんファミリーですが、瑠莞くんがもう少し大きくなったら、やりたいことがたくさんあります。「公園で兄弟仲良く元気に走り回ってほしい」と正伸さんが話せば、恵美さんも「お弁当を作ってお花見に行きたい」とほほ笑んで一。璃久くんも「こどもの城に行きたい」と元気いっぱいに答えます。暖かくなったら、家族4人で遠出して一。忽那さんファミリーの思い出のアルバムは、まだまだ増えていきそうです。

今回は、恵美さんのお友達、石丸麻美さん＝筒井＝ファミリーをご紹介します。

◎ PROFILE

くつな・まさのぶ 会社員。スポーツをすることが好き。北川原出身
くつな・えみ 主婦。断捨離を頑張っている。松山市出身
くつな・りく サッカーが好き。4月から小学校で算数を頑張ろうと意気込んでいる。6歳
くつな・るい ダンスの音楽が好き。家族のアイドル。10カ月

Boys&Girls, Be

Kids

岡田小6年・西高柳 ^{しのざき} 篠崎 ^{かん} 貫仁 ^と くん

Ambitious! 頑張る子どもを紹介します

夢は甲子園 ソフトボールから硬式野球へ

岡田小学校6年生の篠崎貫仁くん。ソフトボールを頑張っている男の子です。

3年生の終わりから岡田スポーツ少年団に入団して、ソフトボールに励んでいる貫仁くん。その魅力は「野球と違って塁間が近いので、スピード感があるところ」とほほ笑みます。このように魅力を感じ、ソフトボールにやりがいを感じている貫仁くんは、「他のスポーツをやりたいと思ったことはない」ときっぱり。土日の練習のほかに、朝はティーバッティング、夕方はキャッチボールを行うなど自主練習も頑張っています。

努力を続けているのには、理由があります。「甲子園に行きたい」と力強く話す貫仁くん。「少しでも早く慣れたい」との思いから、中学生となる4月からは硬式野球のチームに入ることとしています。「身長は高い方ではないから、素振り続けるなどして、毎日努力をし続けたい」と抱負を語ります。

憧れの甲子園の舞台へ。その切符を勝ち取るため、今から一步一步着実に前へ進んでいきます。

